

テーマ	決算整理仕訳（Ⅱ）						
学籍番号	/	/	/	/	/	氏名	

	借方		貸方	
(1)	現金過不足	750	雑益	750
(2)	仕入 繰越商品	15,000 20,000	繰越商品 仕入	15,000 20,000
(3)	貸倒引当金繰入	12,000	貸倒引当金	12,000
(4)	有価証券評価損	2,000	売買目的有価証券	2,000
(5)	減価償却費	90,000	減価償却累計額	90,000
(6)	消耗品	1,200	現金	1,200
(7)	消耗品費	900	消耗品	900
(8)	消耗品費	800	現金	800
(9)	消耗品	100	消耗品費	100
(10)	前払保険料	2,000	支払保険料	2,000
(11)	支払家賃	90,000	未払家賃	90,000
(12)	受取手数料	4,500	前受手数料	4,500
(13)	未収家賃	100,000	受取家賃	100,000

1. 次の取引について仕訳を示しなさい。

- (1) 本日、決算を迎えたが、現金過不足¥750（貸方残）については依然として原因が判明しないままであった。
- (2) 決算日となり商品に関して決算整理仕訳を行う。なお、当期商品仕入高は¥300,000、期首商品棚卸高は¥15,000、期末商品棚卸高は¥20,000であった。売上原価は仕入勘定で算定する。
- (3) 決算にあたり、売掛金¥500,000に対して3%の貸倒引当金を設定する。なお、貸倒引当金の残高は¥3,000である。
- (4) 株式10株(取得価額@¥2,000)が1株¥1,800に値下がりしているので、評価損を計上した。
- (5) 取得価額¥500,000、残存価額は取得価額の10%、耐用年数5年の備品を減価償却した。(間接法)
- (6) 消耗品を現金¥1,200で購入した。(購入時資産処理)
- (7) 上記(6)の消耗品について、決算日における未使用高は¥300であった。(購入時資産処理)
- (8) 消耗品を現金¥800で購入した。(購入時費用処理)
- (9) 上記(8)の消耗品について、決算日における未使用高は¥100であった。(購入時費用処理)
- (10) 決算日(3月31日)にあたり、12月1日に1年分¥3,000支払った保険料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (11) 7月1日に建物の賃借契約(期間1年、月額¥10,000)を結び、家賃は契約終了時に全額支払うことにしていたが、決算日(3月31日)にあたり、経過分を見越し計上する。
- (12) 決算日(12月31日)にあたり、10月1日に1年分¥6,000受取った手数料のうち、未経過分を繰り延べる。
- (13) 8月1日に建物の賃借契約(期間1年、月額¥20,000)を結び、家賃は契約終了時に全額受け取ることにしていたが、決算日(12月31日)にあたり、経過分を見越し計上する。